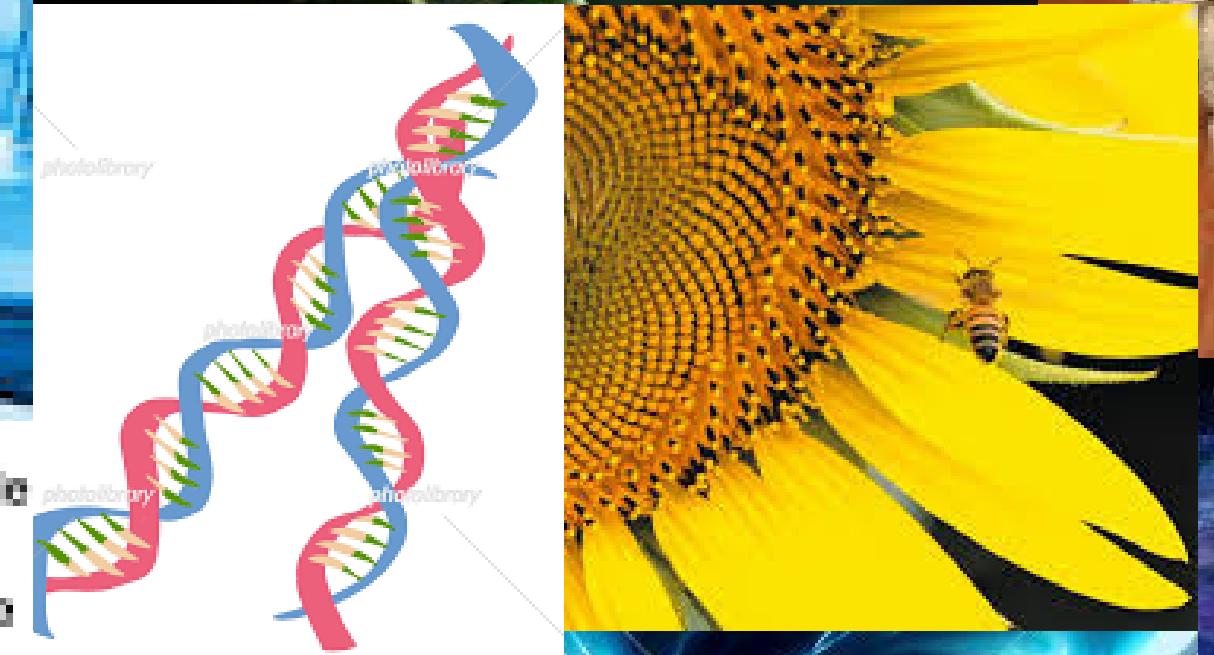
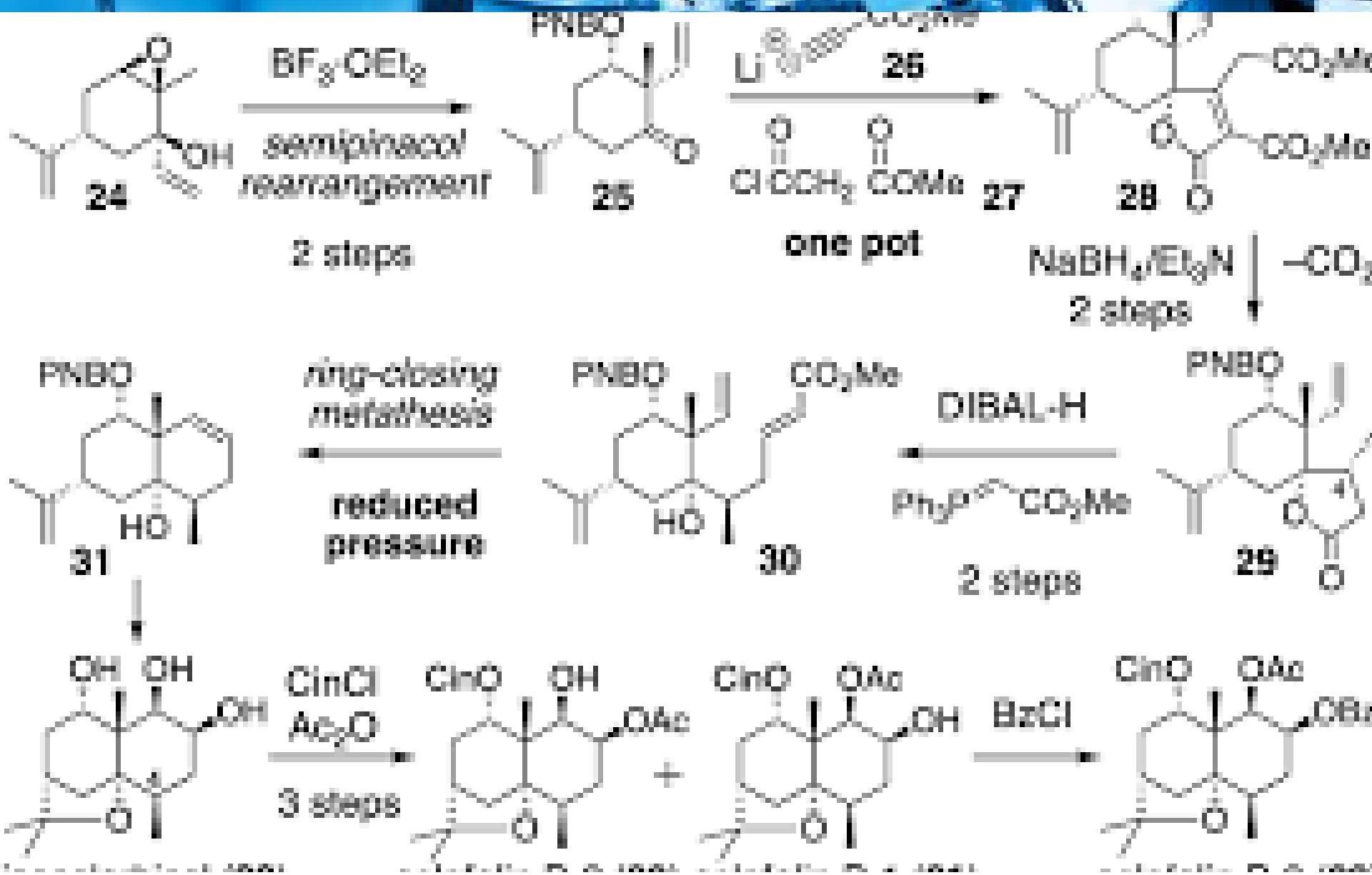


タバコ・添加物

石油 化学物質



zero plus



危険な甘味料

1. アスパルテーム
2. スクラロース
3. サッカリン
4. アセスルファムK

5. ステビア(植物由来もある)

神経系への影響や発癌性が指摘
アレルギー

反応肥満やメタボリックシンドrome



酸化防止剤

長期的な摂取が健康に悪影響を及ぼす

発癌性が指摘、アレルギー

1. BHT(ブチルヒドロキシトルエン)

2. BHA(ブチルヒドロキシアニソール)

3. アスコルビン酸ナトリウム

4. プロピレングリコール

5. 亜硝酸ナトリウム



防腐剤

発癌性が指摘、アレルギー、喘息内分泌攪乱物質として、
ホルモンバランスに影響腸内環境に悪影響を与える可能性

- 1.ソルビン酸
- 2.亜硫酸塩
- 3.ナトリウムニトリット
- 4.合成無料パラベン
- 5.プロピオン酸



保存料

発がん性のリスク、アレルギー、子供に対して行動問題を
引き起こすことが報告 神経系に影響を及ぼす可能性

- 1 亜硝酸ナトリウム
- 2 BHA(ブチルヒドロキシアニソール)
- 3 着色料(特にタル色素)
- 4 ニトロソアミングルタミン酸ナトリウム
- 5 ニトロソアミンニトロソアミン



増粘剤

消化不良のリスクがあるとされる

1. キサンタンガム

2. ペクチン

3. グーガム

4. アラビアガム

5. カラギーナン



キサンタンガム ってなに？

水と混合すると粘性が出ることから、
増粘剤、増粘安定剤として幅広い用途で
用いられています。

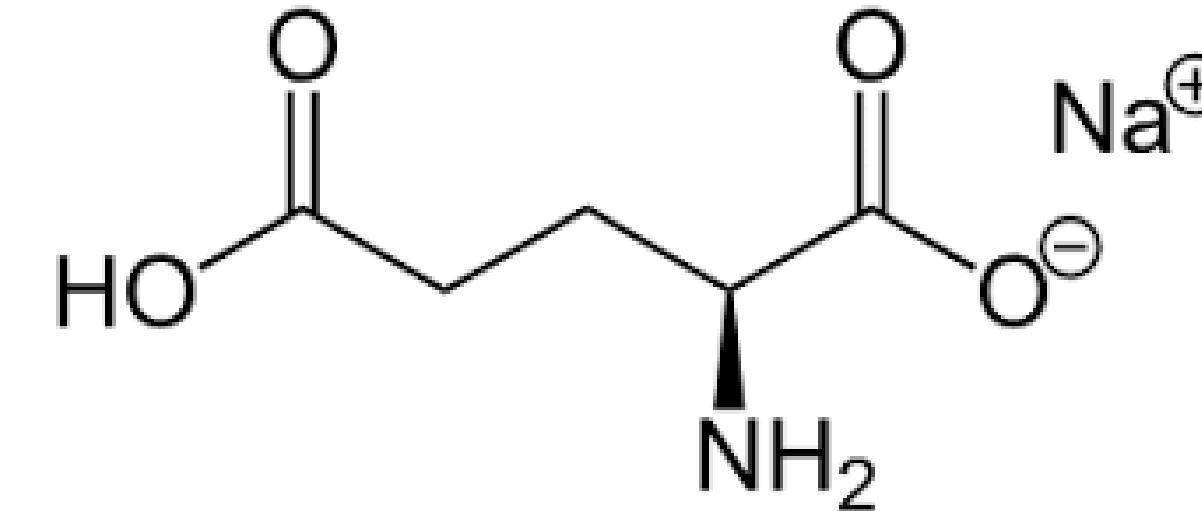
化粧品への利用

大手化粧品メーカー製の商品にも
幅広く使われています。

食品への利用

あんかけのとろみやタレ、サラダ
ドレッシングなど多くの食品に
添加されています。

うま味調味料



アレルギー注意力や行動に影響を与える可能性が指摘、発がん性

1. グルタミン酸ナトリウム
2. 亜硝酸ナトリウム
3. タール色素
4. 香料(合成香料)



5. 人工甘味料(アスパルテーム、スクラロースなど)